

令和7年度 全国学力・学習状況調査における 香美町の調査結果のまとめ（概要）

- 1 調査の概要 〈P1〉
- 2 本町の状況
 - (1) 教科に関する調査の状況
 - ① 小学校に関する状況 〈P2~P6〉
 - ② 中学校に関する状況
 - ③ 教科ごとの調査の状況
 - (2) 教科ごとの定着傾向がみられた問題と課題がみられた問題
 - (3) 児童生徒質問・学校質問に関する調査の状況
 - ① 学校運営に関する取組状況について（抜粋） 〈P7・P8〉
 - ② 自己変容の状況について（小6年時と中3年時の3年間の経過から）
〈P9・P10〉
 - ③ これまでの回答状況の変化から 〈P11~P15〉
 - ④ PC・タブレットなどのICT機器の活用について 〈P16・P17〉
 - ⑤ 理科に関する状況について 〈P18・P19〉
 - (4) 児童生徒質問と正答率のクロス分析の状況から
 - ① 「朝食を毎日食べている」と正答率の状況について 〈P20〉
 - ② 「家庭の蔵書数」と正答率の状況 〈P21〉
 - ③ 「読書は好き」と正答率の状況 〈P22〉
 - ④ 「タブレットで文書作成ができる」と正答率の状況 〈P23〉
 - ⑤ 「タブレットでのプレゼンテーション作成」と正答率の状況 〈P24〉
 - ⑥ 「自分の考えをまとめる活動」と正答率の状況 〈P25〉

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日

令和7年4月17日（木）小・中学校【国語、算数・数学、理科（小学校）】

令和7年4月14日（月）～17日（木）の希望日【理科（中学校）】

(3) 調査実施校数及び人数

◇小学校6年生：8校 107人 ◇中学校3年生：3校 115人

(4) 調査内容

① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

・調査問題では、上記のアとイを一体的に問う。

・中学校理科は、文部科学省*1CBTシステム(MEXCBT)によりオンライン方式で実施。

*1 CBT(Computer Based Testing)

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

ア 児童生徒に対する調査

イ 学校に対する調査

・児童生徒質問調査は、オンライン方式により実施

2 本町の状況

(1) 教科に関する調査の状況

【調査結果の分析の基準】

全国・兵庫県（公立）の平均正答率を基準として次の表現で示す。但し、中学（理科）は平均*2 IRT を基準とする。

全国(公立)・兵庫県(公立)の平均正答率 平均IRTを基準とした時の割合	全国(公立)や兵庫県(公立)と比較した 時の表現
+5%以上	上回る
±5%未満	同程度
-5%以下	下回る

※2 IRT：児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。項目反応理論 (Item Response Theory)

① 小学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度	同程度
算数	同程度	同程度
理科	同程度	同程度

② 中学校に関する状況

教科	香美町の結果	
	全国(公立)との比較	兵庫県(公立)との比較
国語	同程度	同程度
数学	下回る	下回る
理科	同程度	同程度

③ 教科ごとの調査の状況

小学校

【国語】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
- 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。
- 無解答率については、香美町は全国、兵庫県より低い。
- ▼ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなど必要な情報を見付けることに課題がある。

【算数】

- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる。
- 角の大きさについて理解している。
- 異分母の分数の加法の計算ができる。
- 無解答率が香美町は全国、兵庫県より低い。
- ▼ 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問いに課題がある。
- ▼ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分かで捉えることに課題がある。

【理科】

- ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。
- 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている。
- ▼ 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかに課題がある。

中学校

【国語】

- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。
- 表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
- ▼ 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。
- ▼ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

【数学】

- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる。
- ▼ 素数の意味を理解しているかどうかをみる問題に課題がある。
- ▼ 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題に課題がある。

【理科】

- 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。
- ▼ 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。

(2) 教科ごとの定着傾向がみられた問題・課題がみられた問題

「令和7年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料」
については下記の国立教育研究所 HP を参照してください。

<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.ht...>



小学校 国語

定着傾向がみられた問題

◇【ちらし】の下線部ア・イを、漢字を使って書き直す。

ア(このみ) イ(あつい日)

【問題番号 2四ア・イ】

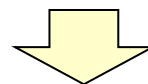
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。

課題がみられた問題

◆【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。

【問題番号 3三(1)】

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。



改善に向けて考えられる方策

学習指導に当たっては、文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかなど、関係を捉えて読むことが大切である。それにより内容をより深く理解したり、解釈したりすることができる。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることも必要である。

小学校 算数

定着傾向がみられた問題

◇ $1/2 + 1/3$ を計算する。

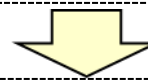
【問題番号 3(4)】

- 異分母の分数の加法の計算をすることができる

課題がみられた問題

◆ $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。【問題番号 3(2)】

- 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみることに課題がある。



改善に向けて考えられる方策

$3/4 + 2/3$ の単位分数が異なっているため、そのままでは整数の加法に帰着できないと気付かせる。その上で、 $1/12$ を共通する単位分数として、何個分と表すことができるに注目させ、加法に帰着できることに気付かせる。

小学校 理科

定着傾向がみられた問題

◇ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の考え方を書く。

【問題番号 2(3)】

- 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている。

課題がみられた問題

◆アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。

【問題番号 2(1)】

- 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうか課題がある。



改善に向けて考えられる方策

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることを理解していることが大切である。そのため、自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めることの大切さを意識して授業を改善することが大切である。

中学校 国語

定着傾向がみられた問題

◇「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く。

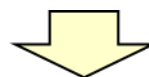
【問題番号 3(二)】

- 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。

課題がみられた問題

◆「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く【問題番号 3(四)】

- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。



改善に向けて考えられる方策等

叙述を基に登場人物の性格を捉えたり、語句の意味を理解したりするとともに、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることが必要である。

中学校 数学

定着傾向がみられた問題

◇A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC 駅とD 駅間の走行距離が分かるかを選ぶ。【問題番号 8 (1)】

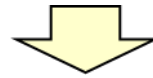
- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる。

課題がみられた問題

◆ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める。

【問題番号 5】

- 相対度数の意味を理解することに課題がある。



改善に向けて考えられる方策等

不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面では、度数分布表やヒストグラムなどを用いて、データの特徴や分布の傾向を読み取ることが大切である。

中学校 理科

定着傾向がみられた問題

◇加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する

【問題番号 5 (1)】

- 加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。

課題がみられた問題

◆【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する。

【問題番号2 (1)】

- 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。



改善に向けて考えられる方策

考察の妥当性を検討し、探究の過程を振り返り、その過程を調整して実験を計画することが大切である。また、Web ページ等の情報を適切に活用することも必要である。授業では、ものづくりの活動を通して自然の事物・現象に疑問をもたせたり、考察の妥当性を高めるための実験や情報収集を行ったりする学習場面を設けることも考えられる。

(2) 児童生徒質問・学校質問に関する調査の状況

① 学校運営に関する各校の取組状況について(抜粋)

【回答数：小学校（8校） 中学校（3校）】

ア. 学校運営に関する状況（抜粋）について

質問番号	質問事項
小（13）中（13）	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか。

	十分に取り入れている	一部取り入れている	全く取り入っていない
小学校	5校	3校	0校
中学校	0校	3校	0校

イ. PDCAサイクルの確立について

質問番号	質問事項
小（15）中（15）	児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	6校	2校	0校	0校
中学校	1校	2校	0校	0校

ウ. 授業研究や事例研究等の実践的な研修について

質問番号	質問事項
小（18）中（18）	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	6校	2校	0校	0校
中学校	1校	2校	0校	0校

エ. 学校運営の課題等への対応の役割分担や連携協働について

質問番号	質問事項
小（21）中（21）	学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか。

	よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
小学校	5校	3校	0校	0校
中学校	2校	1校	0校	0校

オ. 学習評価について

質問番号	質問事項
小（40）中（40）	調査対象学年の児童（生徒）に対する指導に関して、前年度までに、学習評価の方針を児童（生徒）に示した上で、児童（生徒）の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
小学校	2校	6校	0校	0校
中学校	2校	1校	0校	0校

カ. ICT機器の活用状況について

質問番号	質問事項
小(58)中(58)	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
小学校	5校	1校	2校	0校	0校
中学校	1校	0校	2校	0校	0校

キ. 小学校教育と中学校教育の連携について

質問番号	質問事項
小(72)中(72)	前年度までに、近隣等の小学校(中学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか。

	よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
小学校	6校	2校	0校	0校
中学校	0校	2校	1校	0校

ク. 学校と地域や保護者の相互理解について

質問番号	質問事項
小(77)中(77)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。

	よく思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
小学校	5校	3校	0校	0校	0校
中学校	2校	1校	0校	0校	0校

ケ. 調査結果の活用について(教育活動の改善)

質問番号	質問事項
小(83)中(83)	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。

	よく行った	行った	ほとんど行わなかった
小学校	6校	2校	0校
中学校	1校	2校	0校

コ. 調査結果の活用について(保護者・地域への公表)

質問番号	質問事項
小(84)中(84)	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含みます。)

	よく行った	行った	ほとんど行わなかった
小学校	3校	5校	0校
中学校	0校	3校	0校

- 各項目について、概ね肯定的な回答であり、学校長のリーダーシップのもと学校運営の円滑化に向けて、教職員が一体となって取り組んでいる。
- GIGAスクール構想により、すべての児童生徒に配備されたタブレットの授業での活用状況が高まってきている。
- 令和6年度よりすべての学校で設置された学校運営協議会(コミュニティスクール)の取り組みによって学校と地域、保護者の相互理解は深まりつつある。
- 調査結果を自校の教育活動の改善へ活用し、保護者・地域への公表も行われている。

② 自己変容の状況について（抜粋）

質問紙の経年比較により、今年度の中学3年生(115名)の意識が、小学校6年生(120名)の時(令和4年度)と比較してどのように変化しているか追跡した。

<自己有用感、挑戦心、規範意識、達成感>

質問事項	回答状況	小6時の回答状況 (R4年度)%	中3時の回答状況 (R7年度)%
5) 自分には、よいところがあると思いますか。		84.2(香美町) (79.3)(全国)	90.0(香美町) (86.2)(全国)
7) 将来の夢や目標を持っていますか。		84.2 (79.8)	64.1 (67.5)
9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。		99.2 (96.8)	98.4 (95.9)
11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。		98.3 (95.1)	99.2 (96.6)

<学習に対する関心、意欲、態度>

質問事項	回答状況	小6時の回答状況 (R4年度)	中3時の回答状況 (R7年度)
53) 算数・数学の勉強は好きですか。		63.4(香美町) (62.5)(全国)	45.8(香美町) (53.8)(全国)
54) 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。		78.3 (81.2)	59.2 (70.3)
55) 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。		95.0 (93.3)	75.0 (75.2)
56) 算数・数学で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。(R7:活用できていますか。)		75.8 (69.3)	56.7 (57.9)
57) 算数・数学の問題の解き方が分からないときには、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。		80.0 (80.4)	75.0 (76.2)

<基本的な生活習慣、学校生活等、地域や社会に対する興味・関心>

質問事項	回答状況	小6時の回答状況 (R4年度)	中3時の回答状況 (R7年度)
1) 朝食を毎日食べていますか。		97.5(香美町) (94.4)(全国)	90.0(香美町) (91.2)(全国)
2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。		90.9 (81.5)	89.1 (81.0)
27) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(R7:何かしてみたいと思いますか。)		56.7 (51.3)	84.1 (75.3)
33) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。(R7:新たな考え方に気付いたりできていますか。)		85.0 (80.1)	88.3 (84.7)

(注) 各質問事項の問いに対して「している・どちらかといえばしている」、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」などと肯定的に回答した割合である。

分析

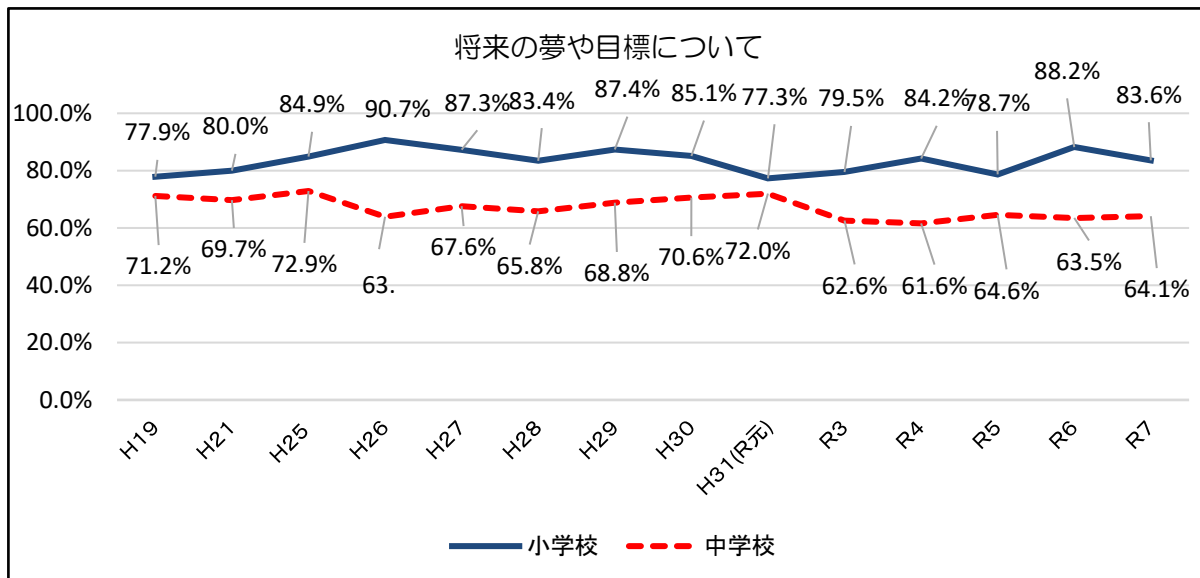
- 「自分には、よいところがあると思いますか」は小学6年と中学3年を比較すると香美町、全国とも増加している。
- 「夢や目標を持っていますか」は全国、香美町とも減少しており、香美町については、約20ポイント減少している。今後とも、夢や目標を持って取り組めるよう、更なるキャリア教育の推進などが必要である。
- 規範意識は、全国、香美町とも高く、特に「いじめは、どんな理由があってもいけない」という意識が高い。これまでからの人権教育の充実による人権意識の高揚によると考えられる。
- 小学校から中学校に進級し、教科も「算数」から「数学」に変わり、肯定的な回答の割合は低下傾向にある。「勉強は好きですか。」「授業の内容はよく分かりますか。」については、香美町は全国平均よりも低い状況である。
- 「算数・数学の授業で学習したことは、普段の生活の中で活用できないか考えますか。（活用できていますか）」について、香美町の生徒は全国よりもやや低い。算数・数学の学習が日常生活と結びついている場面を児童生徒に提示し、好奇心を持って学習に取り組む指導方法の工夫改善が求められる。
- 基本的な生活習慣や学校生活等については、肯定的な回答が高く概ね良好と考えられる。
- 地域社会への貢献については、全国より香美町の生徒の割合が高くなっている。ふるさと教育の実践などを通じて、地域の一員としての生き方を考える取組や実践の成果と考えられる。
- 「学級の友達との間で話し合う活動」については、小学生の時より中学生の方が肯定的な回答の割合が高くなっている。学校生活の中での話し合い活動の積み上げが、効果を上げていると考えられる。

③ これまでの回答状況の変化から

児童生徒質問については、調査開始当初から継続調査している項目を中心に抜粋し、調査結果の推移・分析を掲載する。

ア【将来の夢や目標について】（キャリア教育推進関連）

【質問番号 小・中(7)】

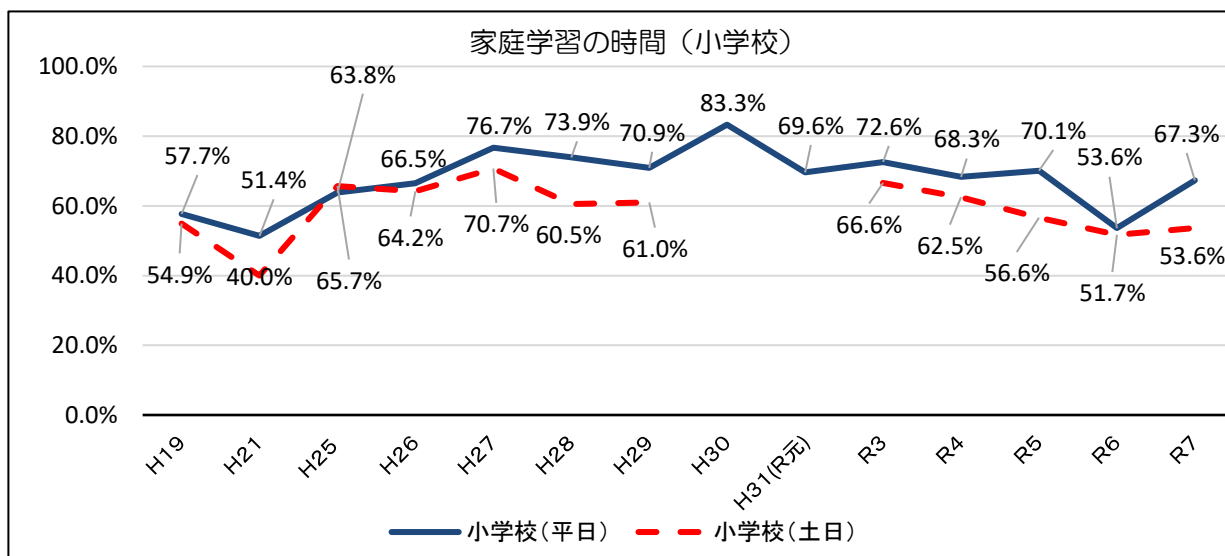


(注) 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の割合の推移

- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童は 80%台、生徒は 60%台で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、一貫化教育の取組の中でキャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいく。

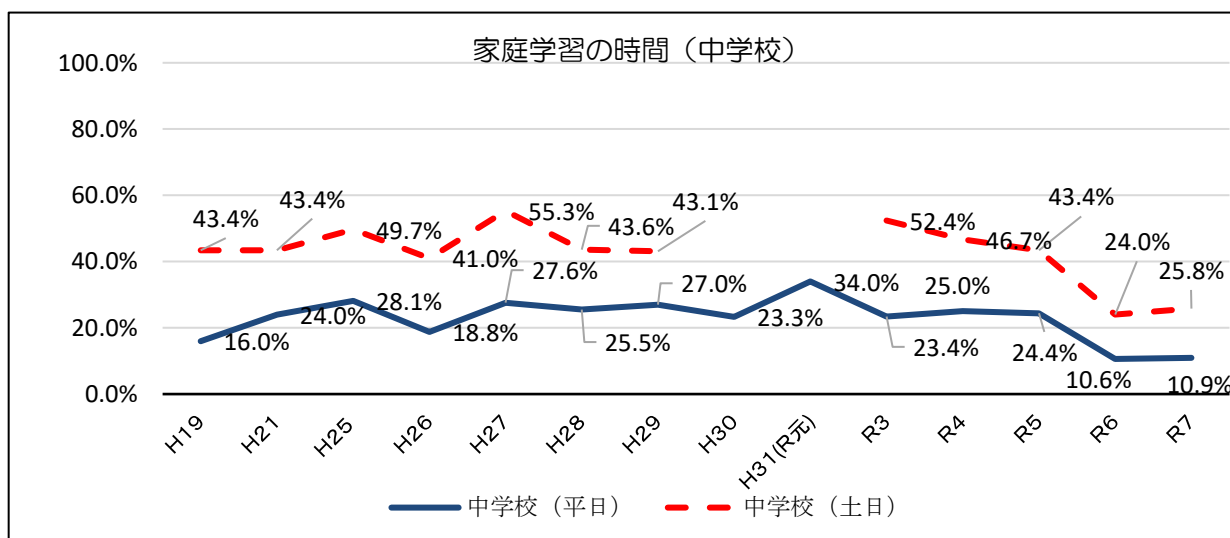
イ【家庭学習について】（キャリア教育推進関連）

【質問番号 小（17・19）】



（注）児童…1時間以上（平日・土日とも） （注）H30.H31は質問項目なし

【質問番号 中（17・19）】

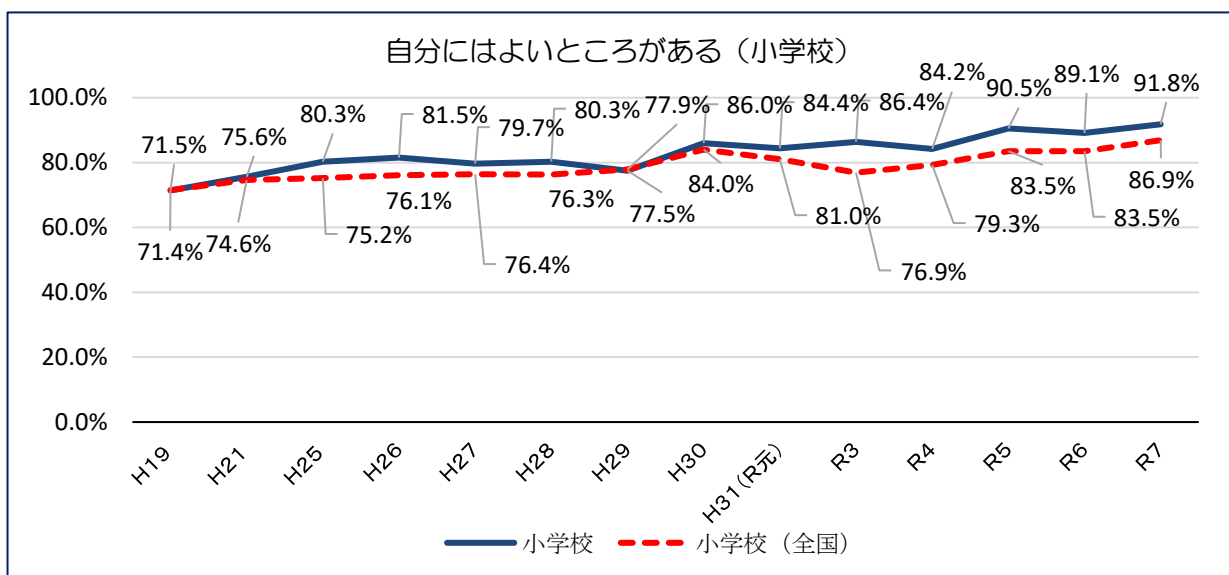


（注）生徒…2時間以上（平日・土日とも） （注）H30.H31は質問項目なし

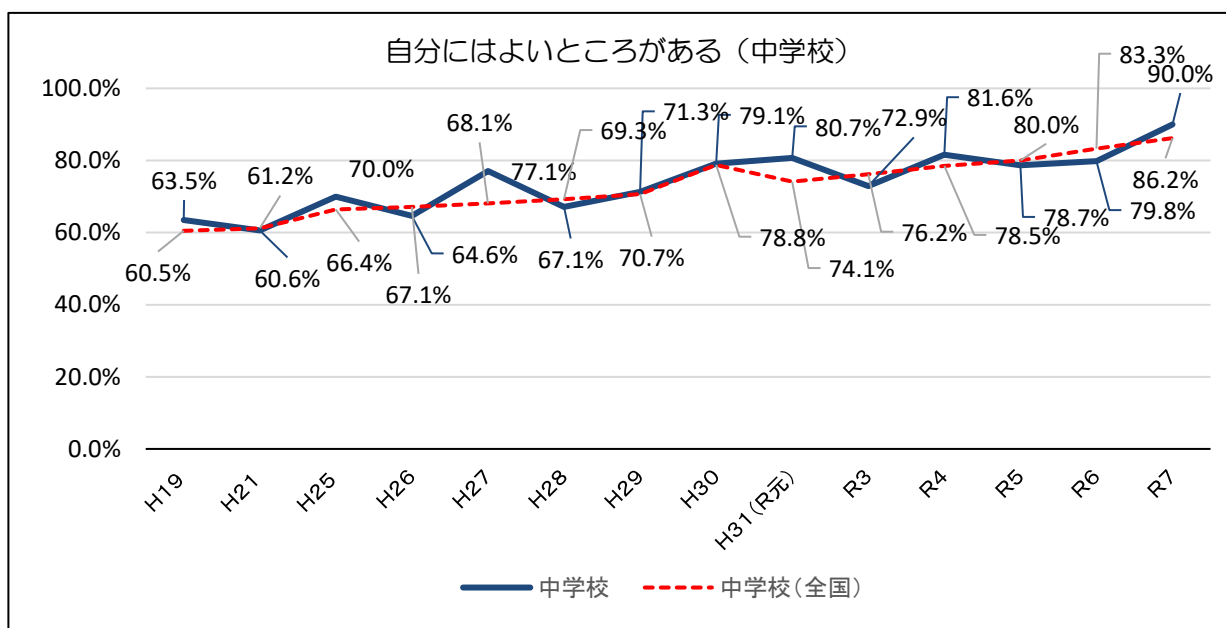
- 減少傾向であった児童の家庭学習時間が平日・土日とも増加し、特に平日1時間以上学習している児童は、60%台となった。
- 生徒では、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している割合は、昨年度と同程度であり、20%台である。また、土日に2時間以上学習している生徒も10%台である。
- テレビゲームの時間やSNS/動画視聴の時間の見直しのため「家庭学習のきまり」による啓発など、家庭学習の習慣化のため校区内の小学校・中学校と家庭が連携して取り組むことが必要である。

（参考）「R6 児童生徒質問」より

【平日】SNS/動画時間	児童	生徒	【平日】テレビゲーム時間	児童	生徒
1時間以上	43.6%	78.0%	1時間以上	78.1%	72.2%
2時間以上	24.5%	44.3%	2時間以上	43.6%	38.5%

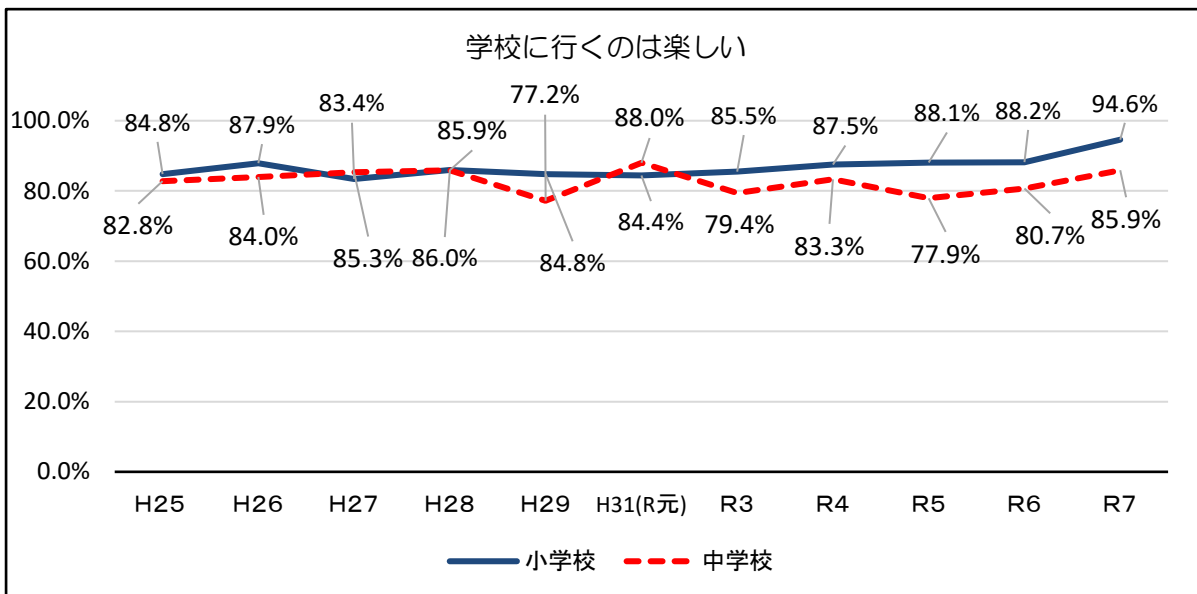


(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の推移



(注) 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合の推移

- 児童・生徒とも自己有用感を抱いている割合は90%以上であり、全国と比較して高い。
- 経年比較全体としてみれば、ゆるやかに右肩上がりになっており、保護者や教師が子どものよいところを褒めたり、認めたりするなどして自信をもたせる取組により、一定の成果が現れつつあると考えられる。
- 家庭との連携を図るとともに、授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの達成感や成就感を持たせる取組を充実していくことが大切である。
- 幼児期の「ほめる」「認める」指導を徹底し、その成長を保護者と共有することで自尊感情を育てる。



(注)平成30年度は、児童生徒質問紙に本質問がなかったためデータなし

(注)「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の推移

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、90%以上、生徒の割合は80%以上であり、調査開始以降で最も高い。
- 令和3年度以降の生徒の満足度が減少した原因の一つとして、新型コロナウイルス感染症による影響で、主体性が発揮できる学校行事などが減ったことや進路への不安などが影響していたことなども考えられる。
- 「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えている児童生徒が一定割合いることが課題である。

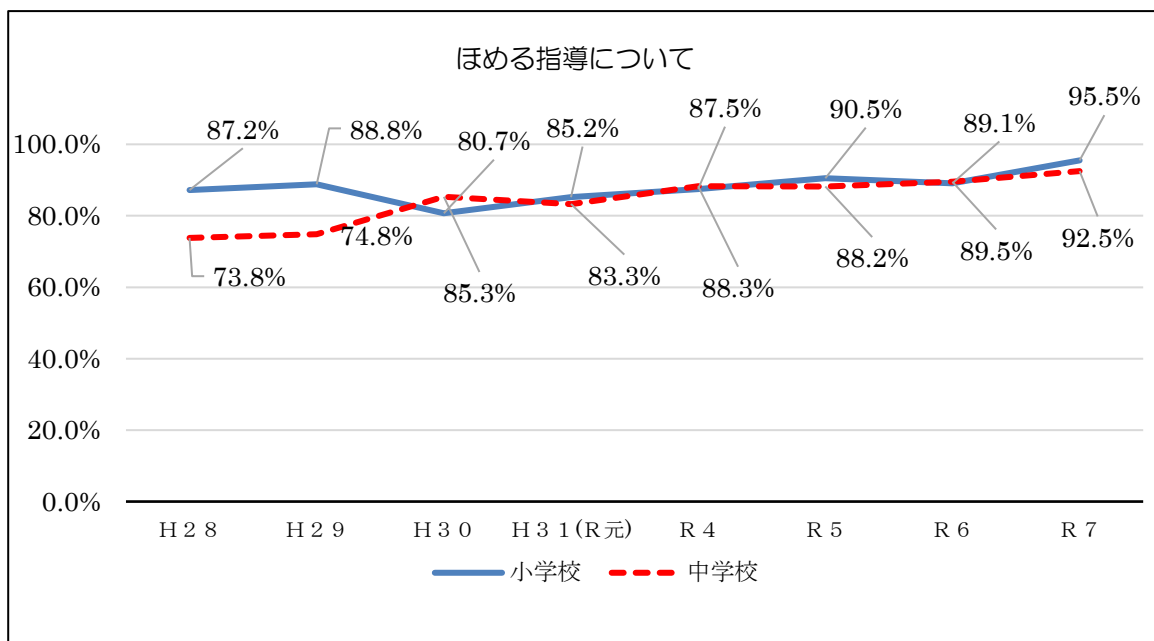
(参考)

■ 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、次のとおりである。
(%)

	児童	生徒
香美町	66.5	44.2
兵庫県	48.4	45.2
全国	49.9	45.6

オ【教師が児童生徒のことを認めることについて】（「ほめる指導」「認める指導」関連）

【質問番号（小・中8）】



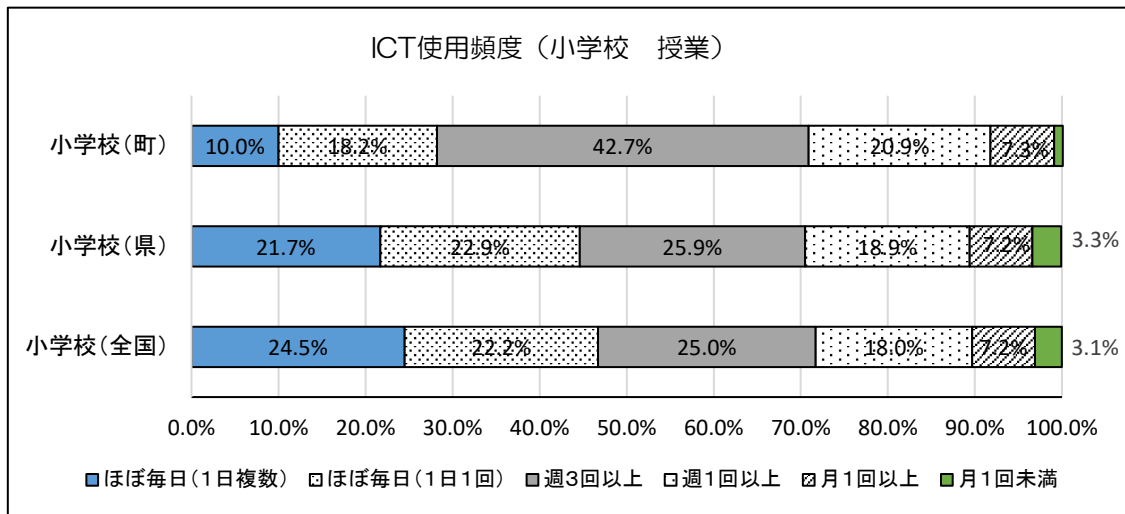
(注) 「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の推移

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童生徒の割合は、児童生徒ともに90%を超えている。
- 「香美町教育の重点」に示された「ほめる指導」「認める指導」の推進が定着しつつあることがうかがえる。
- 今後とも、脳科学の知見を生かし「ほめること」「認めること」の大切さを保護者などに啓発していくとともに、その実践充実に努め、児童生徒の学習意欲を向上させることが求められる。

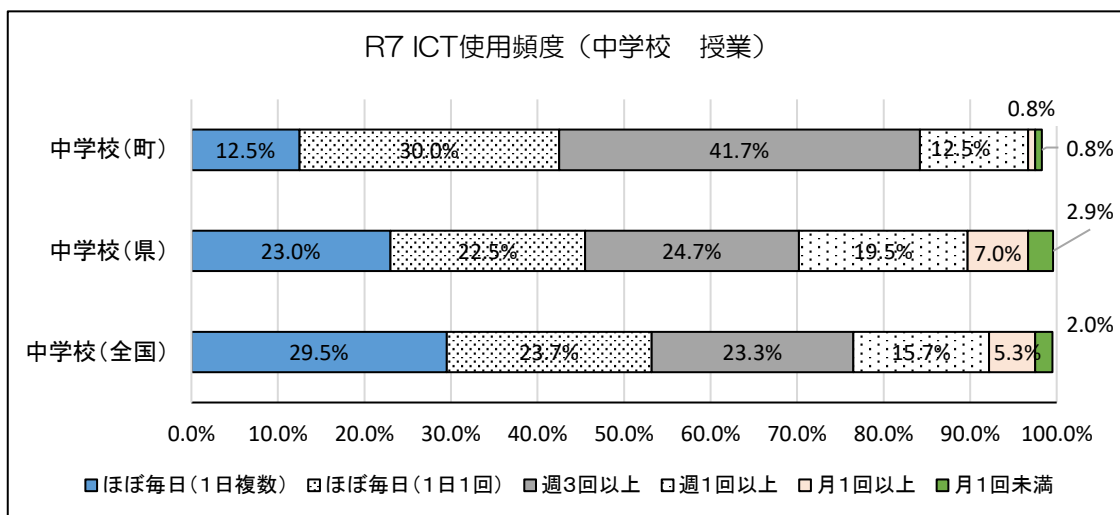
④ PC・タブレットなどのICT機器の活用などについて

ア【ICTの活用頻度①〈授業〉】

【質問番号 小(28)】

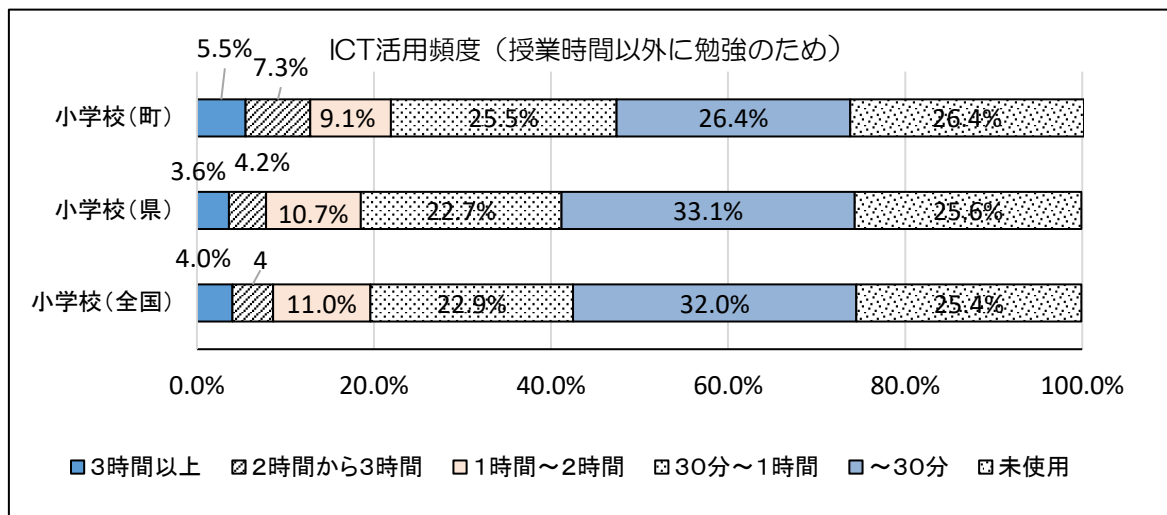


【質問番号 中(28)】

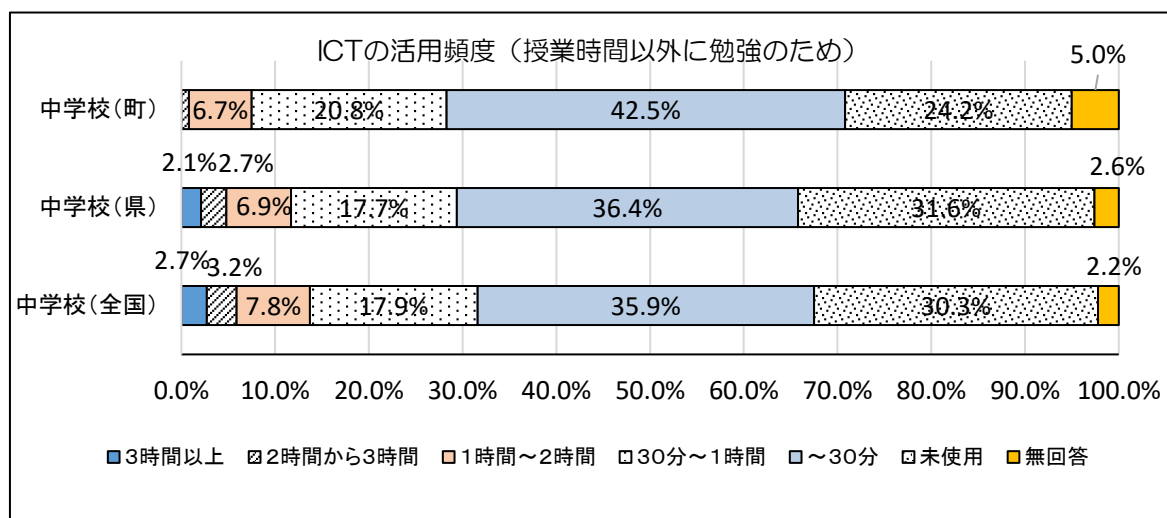


イ【ICTの活用頻度②<授業時間以外>】

【質問番号 小(18)】



【質問番号 中(18)】



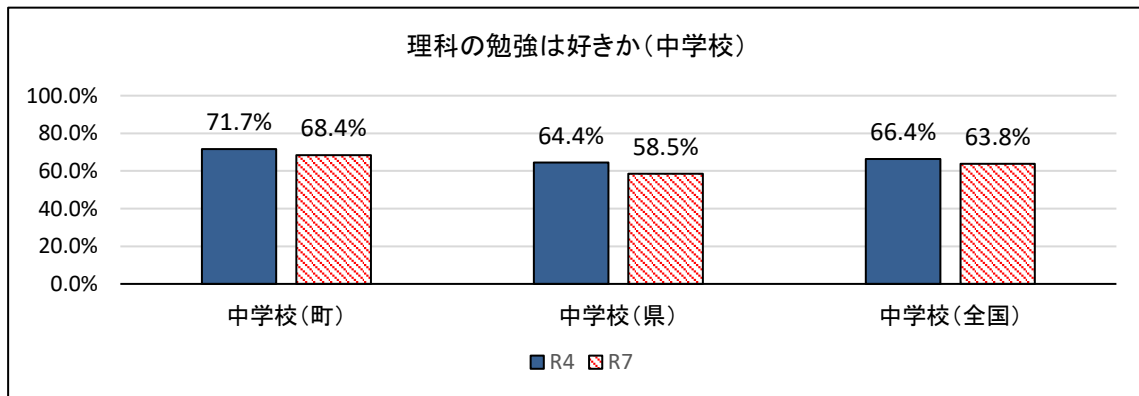
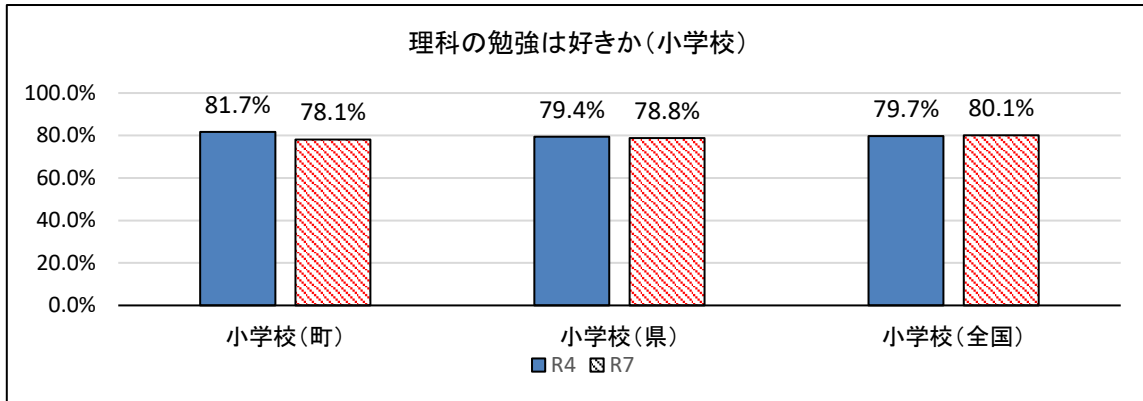
- 授業でのPC・タブレットの活用頻度の割合は、児童生徒とも全国、兵庫県と比較して下回っている。
- 授業時間以外の場面で勉強のための活用頻度の割合は、児童は全国、兵庫県と比較してほとんど同じである。生徒は全国、兵庫県と比較してやや下回っている。
- ICT機器の活用内容（情報収集・文章作成・プレゼン作成）については、児童生徒とも全国、兵庫県と比較し同傾向である。【参考】小・中質問（番号29-1～4）
- 今後とも、授業の指導方法の工夫改善に向けて、PC・タブレットの効果的な活用の研修と実践を積むことが求められる。

⑤ 理科に関する状況について

本年度、理科に関する児童（生徒）質問調査が3年ぶりに実施された。令和4年度と令和7年度の比較なども含めた結果は以下のとおりである。

ア【理科に関する興味・関心等】

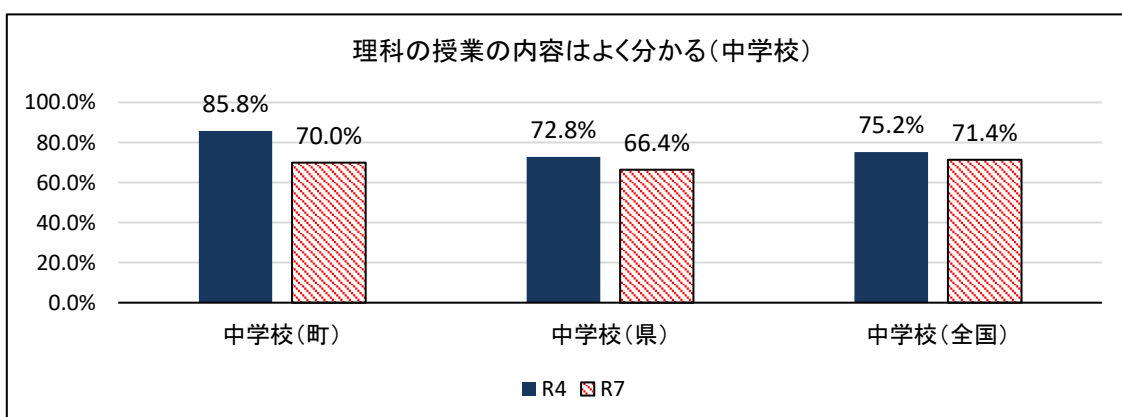
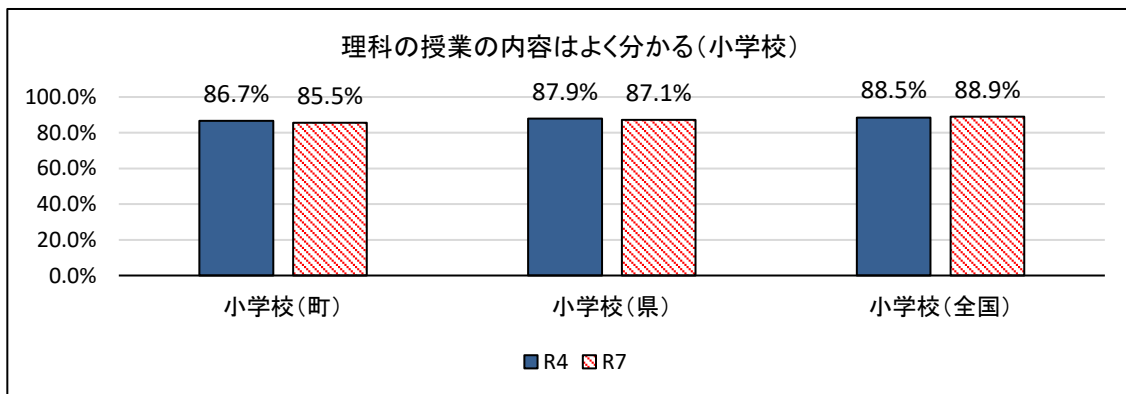
【質問番号 小・中（61）】



(注) 各質問とも「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合 以下同じ

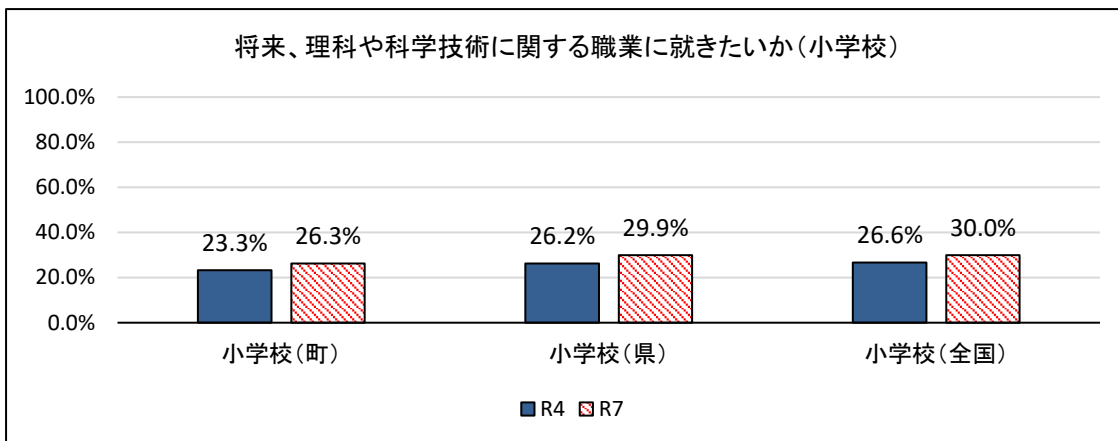
イ【理科の授業における理解度】

【質問番号 小・中（62）】

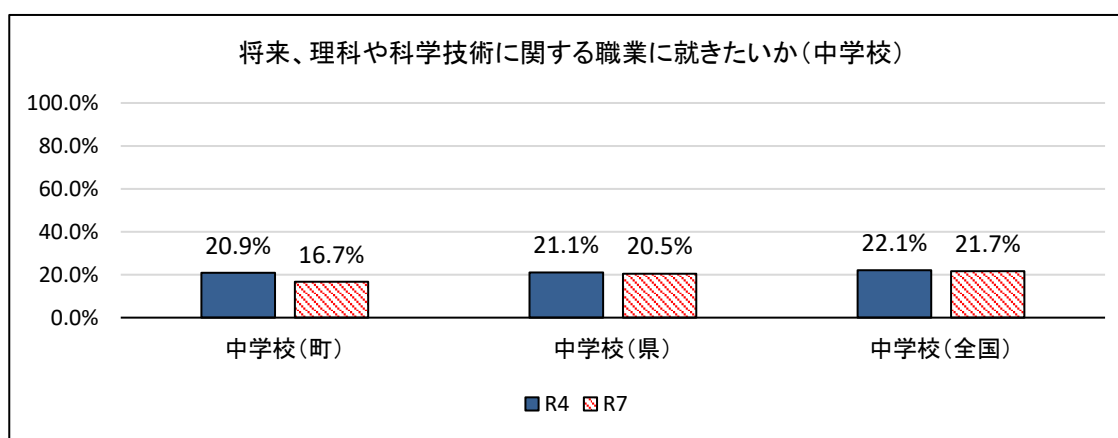


ウ【理科や科学技術の就業への希望】

【質問番号 小・中(64)】



(注) 各質問とも「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合



- 「理科の勉強は好きか」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は、香美町は県と比較すると同程度であり、この傾向は前回調査と同様である。生徒は県より少し高く。全国と同程度であるが、前回調査より低下している。
- 「理科の授業の内容はよく分かるか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は香美町は県・全国と比較すると同程度であり、前回調査と同程度である。生徒は県・全国と同程度であるが、前回調査より低下している。
- 「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいか」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は3割弱、生徒は2割弱であり児童は微増しているが、生徒は減少傾向である。この傾向は、町・県・全国とも同じである。

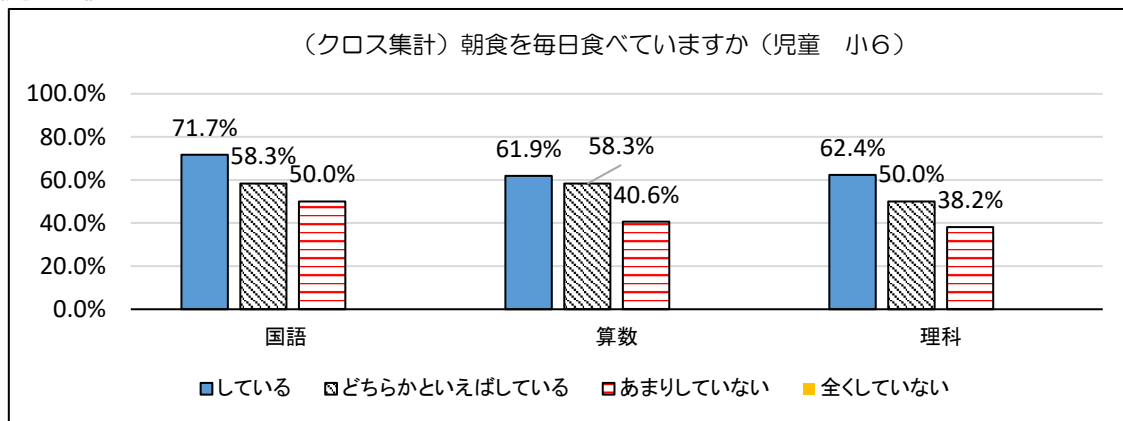
(3) 児童生徒質問と正答率のクロス分析の状況から

児童・生徒質問と学力との間に一定の関係がみられる項目を抜粋し、教科の平均正答率とのクロス集計とその分析結果を掲載する。

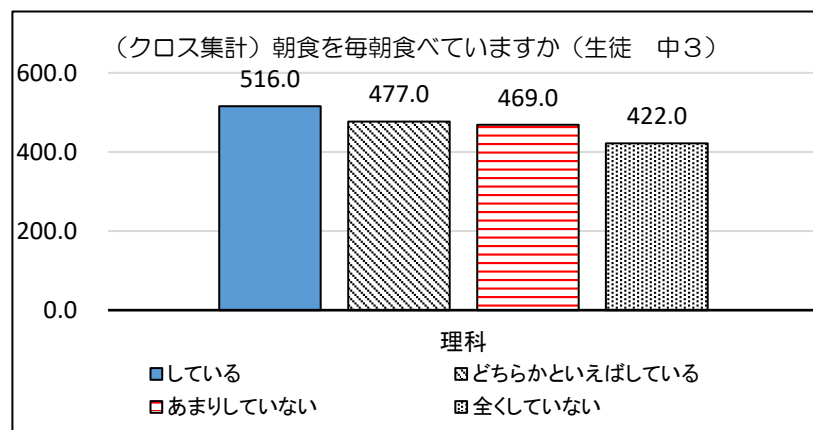
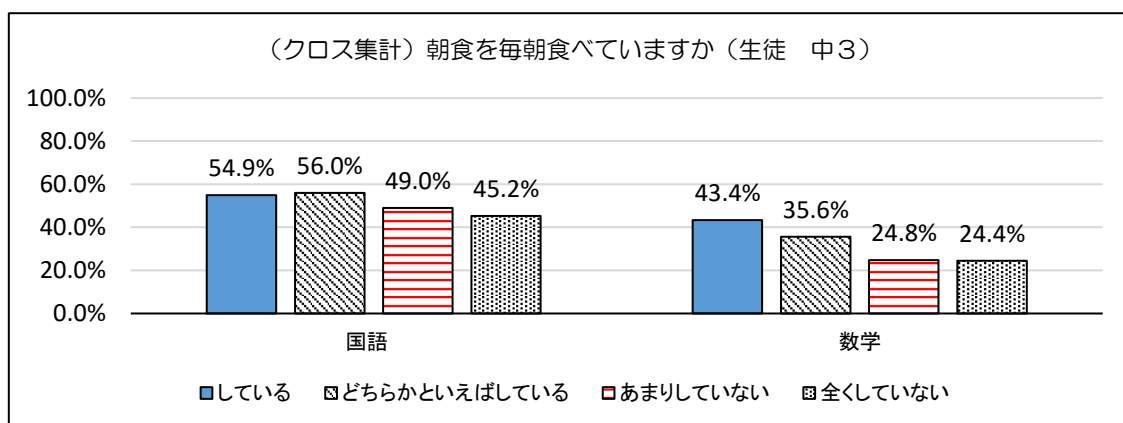
① 「朝食を毎日食べていますか。」

《児童》

【質問番号 小・中(1)】



《生徒》



*理科は IRT に基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500 を基準にした得点で表す。

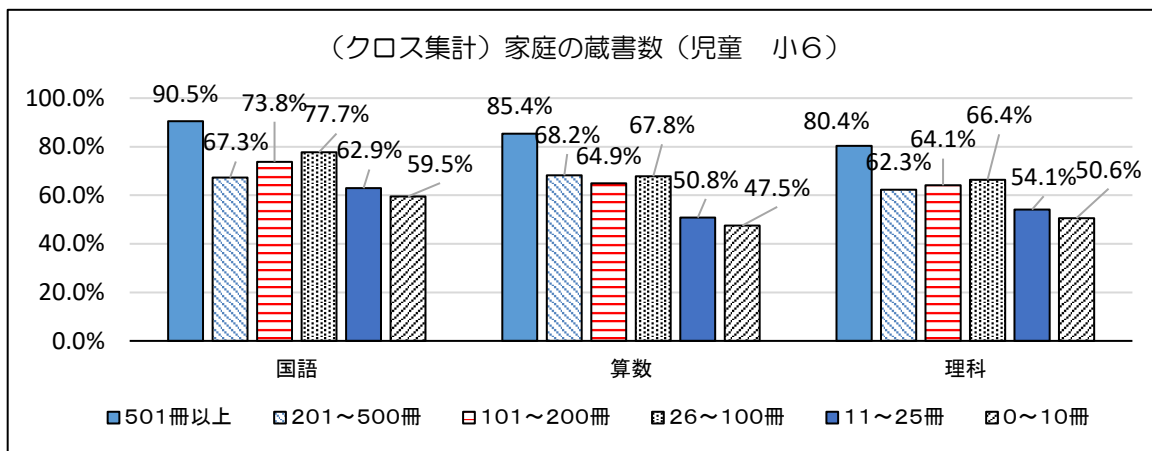
〔分析及び考察〕

- 児童・生徒とも「朝食を毎日食べている」と国語、算数・数学、理科の平均正答率との間に有意な相関関係が認められ、「朝食を毎日食べている」が多いほど平均正答率は高くなる傾向にある。

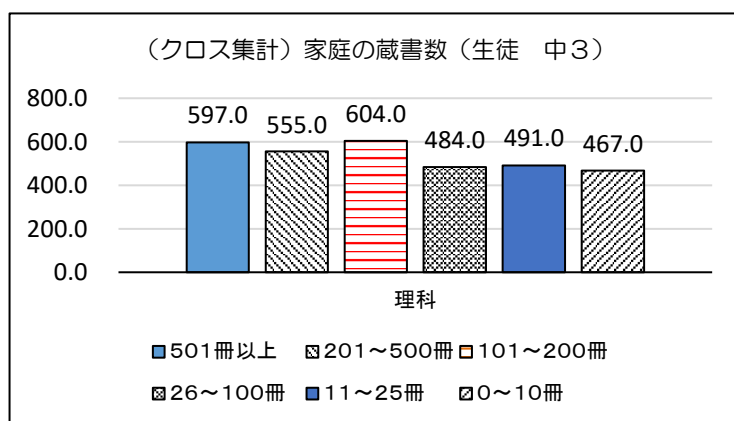
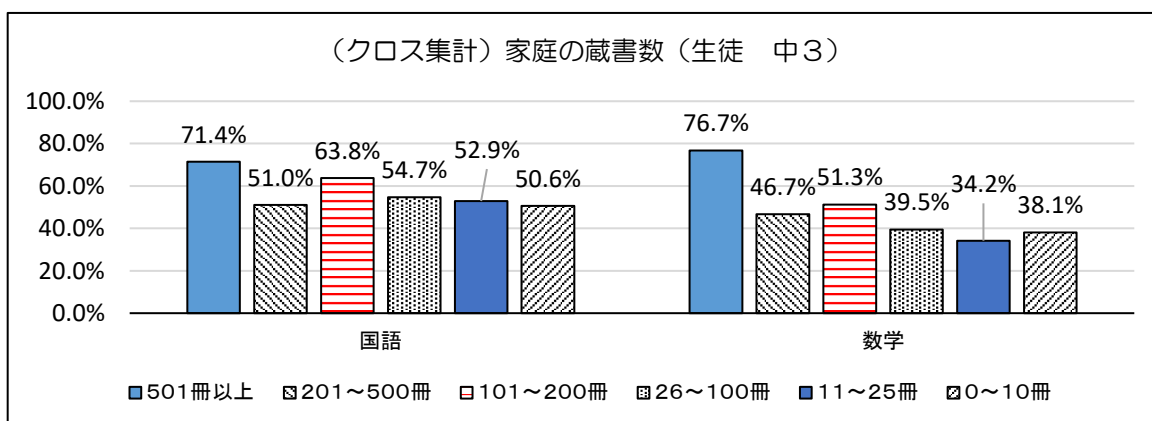
② 「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)」

《児童》

【質問番号 小・中(22)】



《生徒》



* 理科は IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表す。

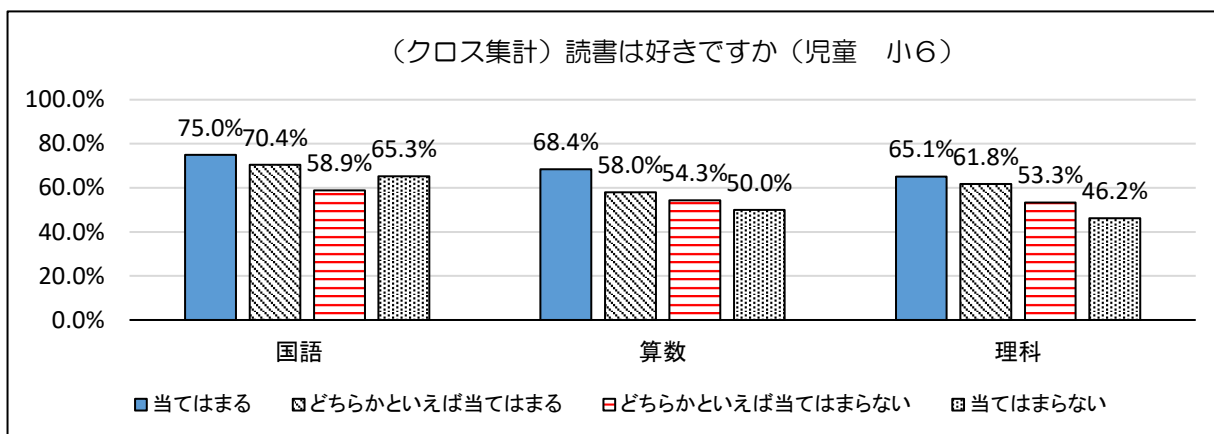
〔分析及び考察〕

○ 児童生徒ともに、家庭の蔵書数と国語、算数・数学、理科の平均正答率の間に相関関係が見られ、蔵書数が増加するほど平均正答率も高まる。特に501冊以上と回答している児童・生徒の平均正答率は、極めて高い。家庭での読書環境の充実が望まれる。

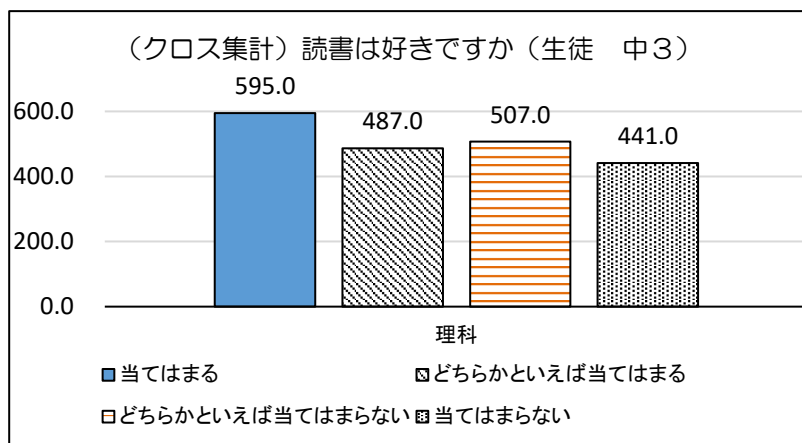
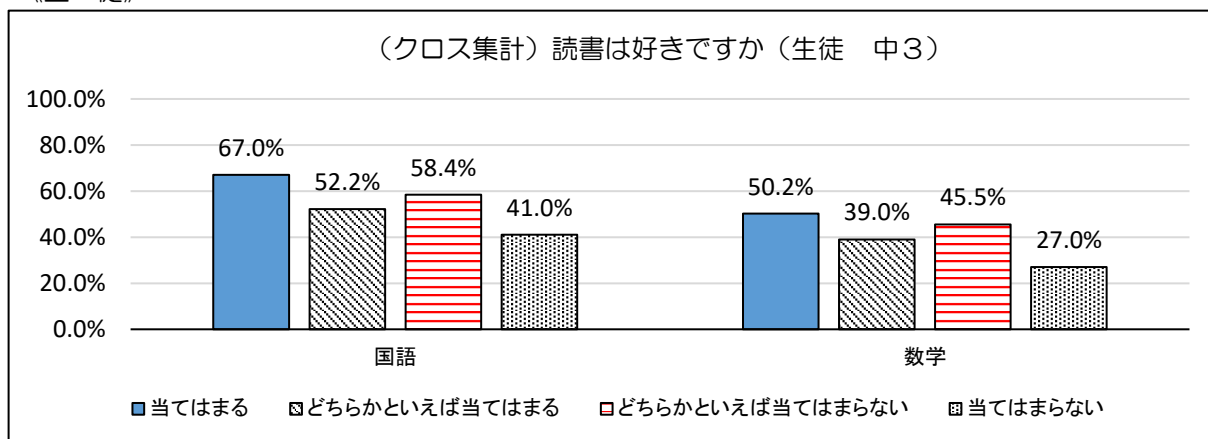
③「読書は好きですか。」

《児童》

【質問番号 小・中(24)】



《生徒》



*理科は IRT に基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500 を基準にした得点で表す。

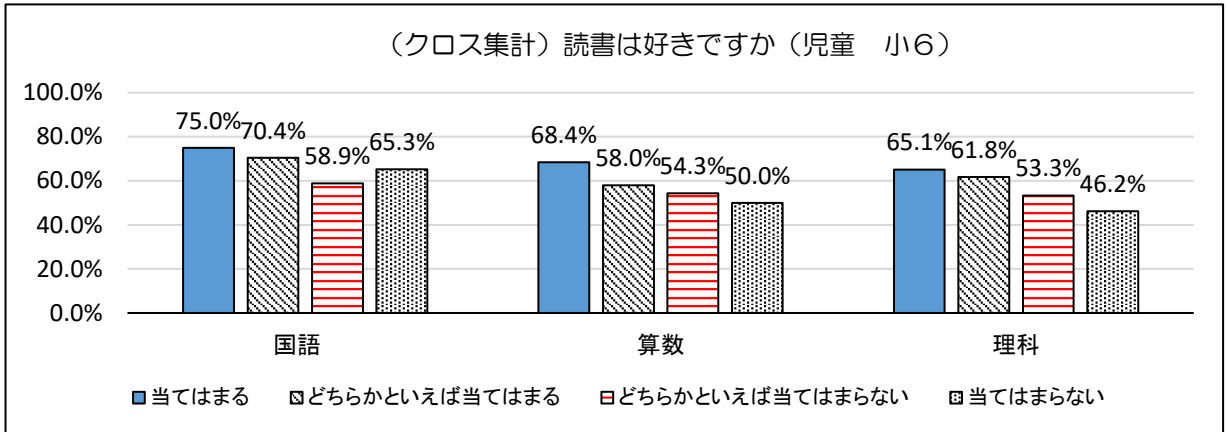
〔分析及び考察〕

○児童・生徒とも「読書は好きですか」と国語、算数・数学、理科の平均正答率との間に相関関係が見られる。特に児童については、その傾向が顕著である。

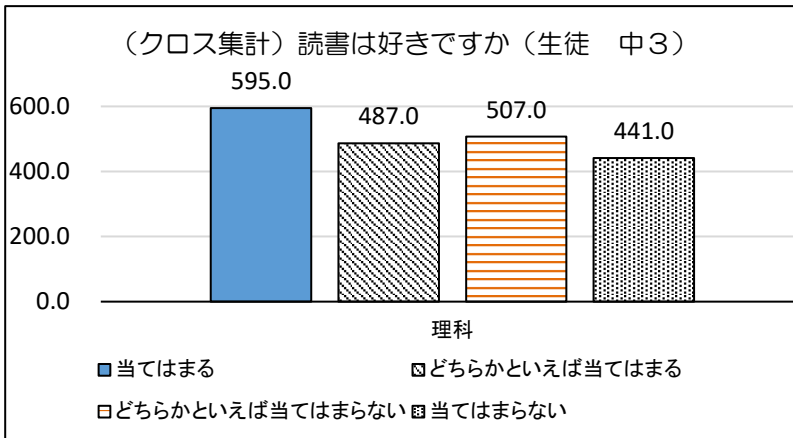
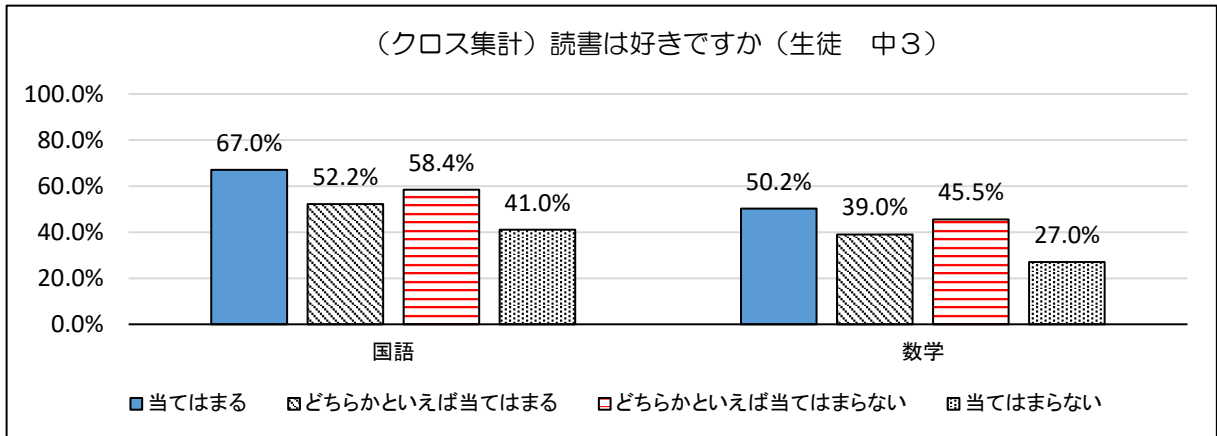
③「読書は好きですか。」

《児童》

【質問番号 小・中(24)】



《生徒》



*理科はIRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表す。

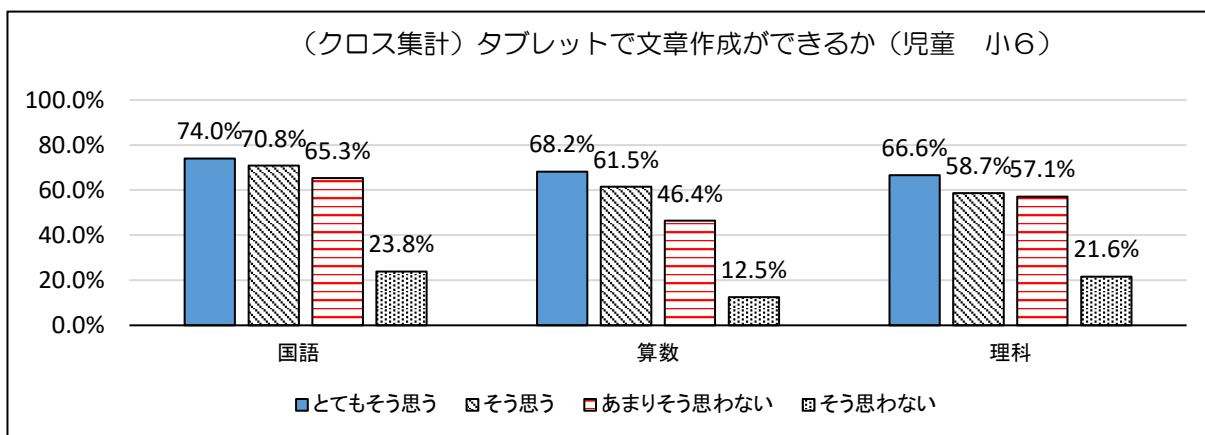
〔分析及び考察〕

○児童・生徒とも「読書は好きですか」と国語、算数・数学、理科の平均正答率との間に相関関係が見られる。特に児童については、その傾向が顕著である。

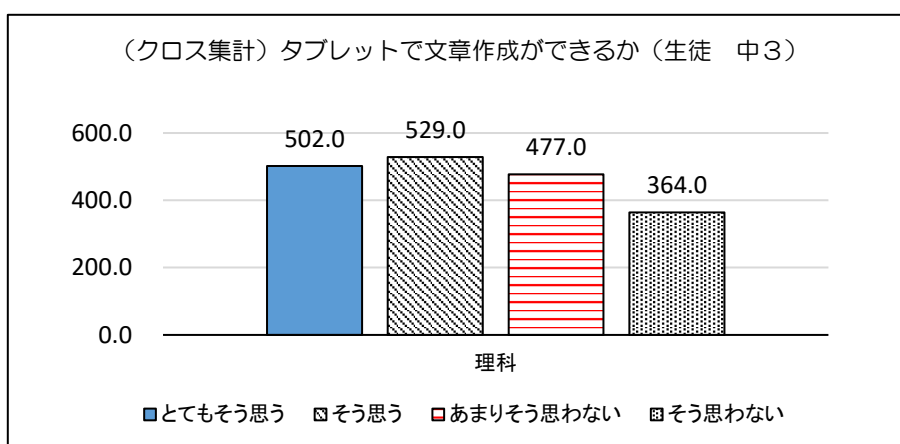
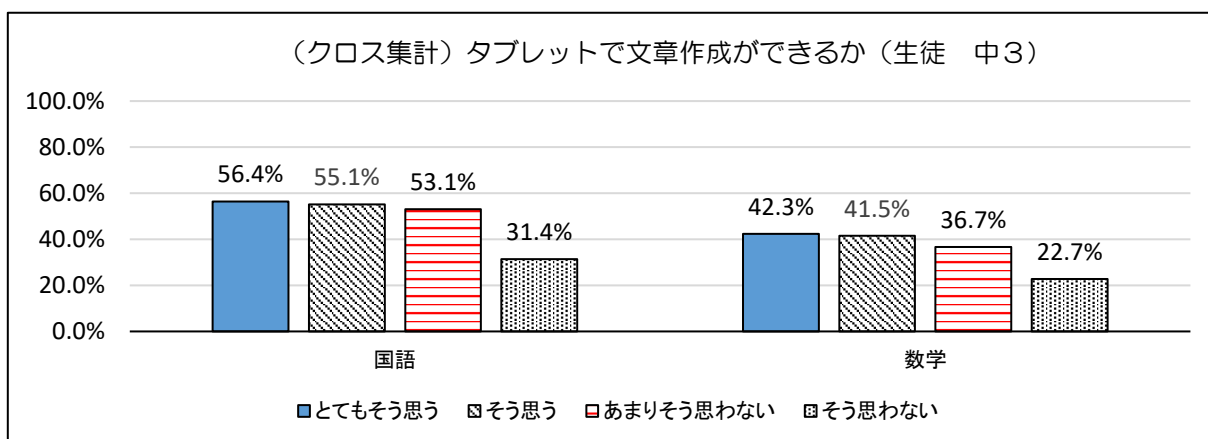
④「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。」

《児童》

【質問番号 小・中(29)】



《生徒》



*理科は IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表す。

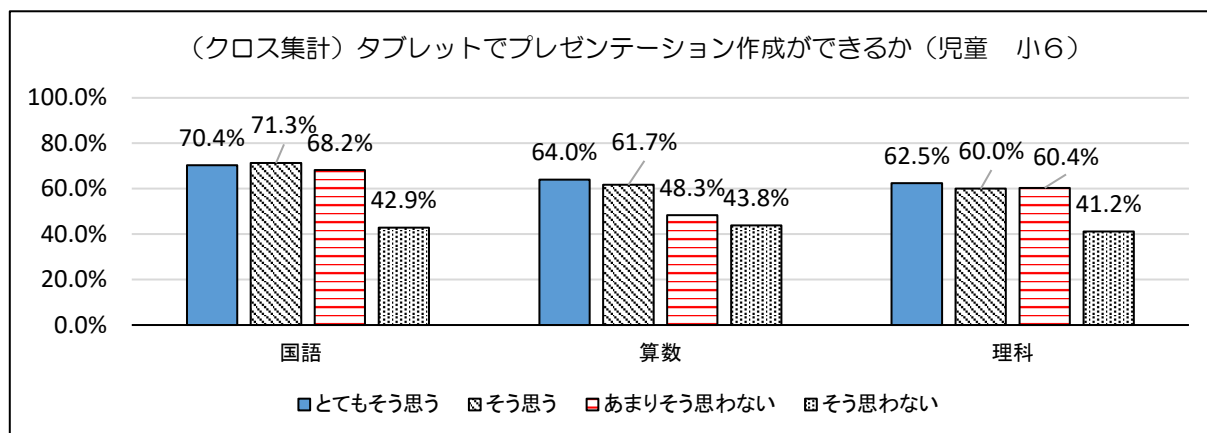
〔分析及び考察〕

- 「タブレットで文章作成ができるか」について、肯定的に回答している児童・生徒のそれぞれの教科における平均正答率が高く、有意な相関関係が見られる。特に児童についてはその傾向が顕著である。
- 授業の中でタブレットを活用し、文章作成に取り組みせたい。

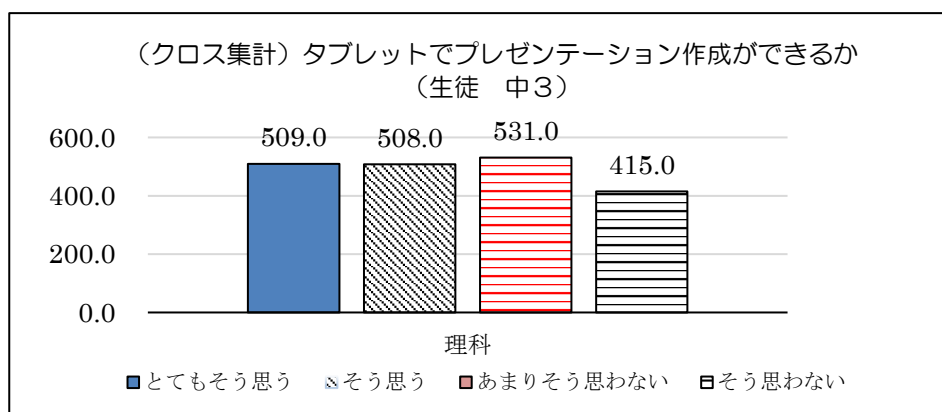
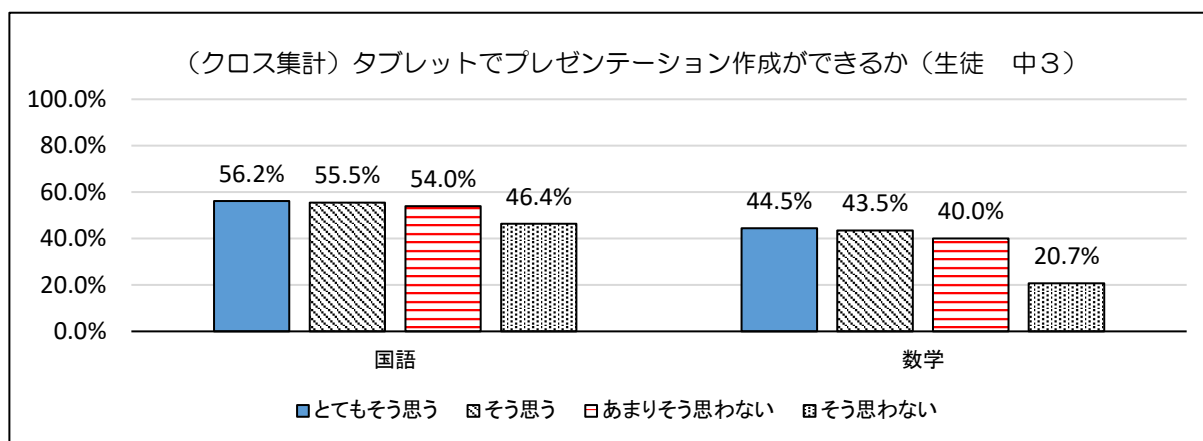
⑤「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか。」

《児童》

【質問番号 小・中(29-4)】



《生徒》



*理科はIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表す。

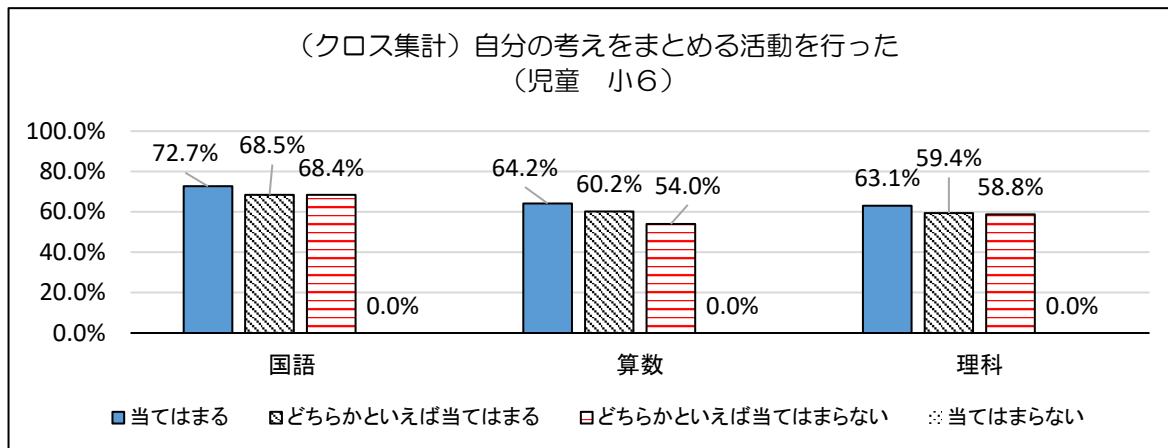
〔分析及び考察〕

- 「タブレットでプレゼンテーション作成ができる」児童・生徒とそれぞれの教科における平均正答率との間には、有意な相関関係は見られる。
- 授業の中で自分で学び方を考え、工夫することができるようプレゼンテーションを活用した授業などに取り組みせたい。

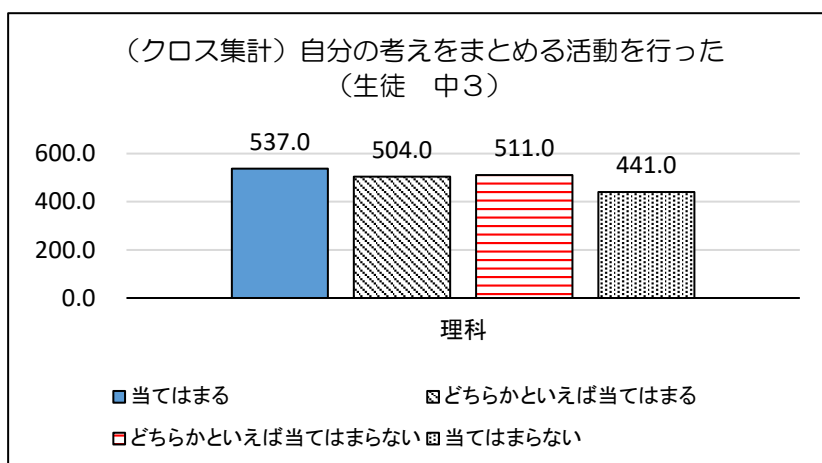
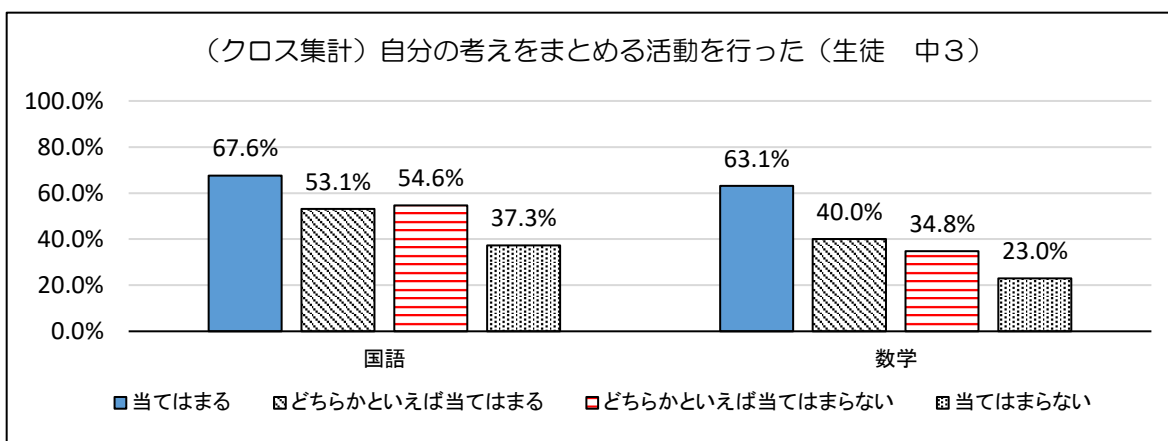
⑥ 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

【質問番号 小・中(33)】

《児童》



《生徒》



*理科は IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表す。

〔分析及び考察〕

- 児童については、「自分の考えをまとめる活動を行った」ができていない児童とそれぞれの教科における平均正答率との間には、有意な相関関係は見られる。
- 生徒についても、肯定的に回答している方が平均正答率が高く、有意な相関関係が見られる。
- 授業の中で自分の考えをまとめる活動ができるよう、ICT 等を活用した授業などに取り組ませたい。

3 今後の取組の方向性について

学校では



魅力ある授業づくりで学びに向かう力を！

児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには、安心して共に学び合う学校環境の整備を進めるとともに、指導者は子どもたちの実態や教室での事実に基づき、学力や学習状況の把握に基づき、きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。

<実践のポイント>

- 国語科を要としつつ、全ての教科等において発達段階に配慮した言語活動の充実を図る。
- 「めあて」「学習課題」「学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を確実に取り入れる。
- 学習者主体の視点を強く意識し、指導形態や指導方法の工夫改善を図るとともに、授業の展開の中に、「書く活動」「読む活動」「発表や話し合う活動」などを積極的に取り入れ、授業改善をすすめる。
- タブレットでの学習支援ソフトの効果的な活用を図り、個別最適な学びを推進する。
- 体験的に学ぶ活動を積極的に取り入れる。
- 「ほめる指導」「認める指導」を大切にする。

指導力を高め合う組織づくりと連続性のある学びを！

子どもたちの学びの連続性を保障するためには、校種間の枠を越え、義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが求められています。そのため、調査結果等を全職員や校種間で共有し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った取組をすすめるとともに、系統性を意識した組織的な授業改善につなげることが大切です。

<実践のポイント>

- 教職員が積極的に学び合う同僚性の構築を組織的にすすめる。
- 中学校区で「めざす子ども像」を共有し、合同研修会などを通して指導方法や指導体制等の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組むとともに、学習ルールや授業スタイルの共有化などを図る。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成・実践し、中学校区で学習への目的意識を持たせる継続的な指導をすすめる。

小規模校ならではの特色を生かした取組を！

小規模校の特色を生かし、きめ細かな指導をすすめるとともに、子どもたちの主体性、望ましい競争心などを育てることが大切です。そのために、「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み、多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係力を高めていきます。

<実践のポイント>

- 事前、事後の打合せや研修を充実させるとともに、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- これまでの取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる検証や評価などに取り組む。
- これまで蓄積された本事業の成果を継承するとともに、課題解決のために設置した「チャレンジプラン総合会議」での情報交換や協議を踏まえ、今後の小学校再編を視野に入れた取組の充実を図る。

家庭・地域では

学校、家庭、地域の一層の連携を！

子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校、家庭、地域の協力は不可欠です。また、地域には学校での学習につながる資源や人材が豊富です。地域に学び、子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは、将来の香美町を支えていくためにも大切です。「コミュニティ・スクール」や「オープンスクール」など、様々な機会や場を通じて、学校と家庭・地域がいっしょになって子どもたちの未来を考え、共に育んでいきましょう。

<実践のポイント>

- 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）、家庭内での対話の習慣化
- 家庭学習の習慣化（「ながら勉強ゼロ」など）
- 家庭で読書等に親しむ環境づくり（「親子で読書」などの習慣化）
- スマートフォン・タブレットなど情報通信機器利用のルールづくり
- 努力すること、最後までやり抜くことの大切さの自覚
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事やボランティア活動などへの参加を通じた「ふるさと意識」や社会貢献意識の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援 等

行政では

学校・家庭・地域への支援を！

香美町では、「ふるさと香美を愛し、夢や志を抱き、共に未来を切り拓く人づくり」をめざし、「第2期香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づいた教育を推進しています。そのために、各学校の教育充実を図るとともに、家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

- 各種研修会の実施による教員や各種指導者の指導力等向上への支援
- 町ホームページ、町広報紙などによる情報提供
- 各種事業の実施（ふるさと教育交流会、ふるさとおもしろ塾、土曜チャレンジ学習、町じゅう図書館活動など）
- 学校等の施設設備など、教育・学習環境の充実 等

◆ 全国の調査結果の詳細は、国立教育政策研究所の web サイトをご覧ください。

<https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/index.html>

